

○議長（河野） 1 番、川崎泰史君。

○1 番（川崎） はい、議長。

○議長（河野） 川崎君。

○議長（河野） 川崎君は一問一答であります。1 問目の質問を許します。

○1 番（川崎） はい。それでは、一般質問に入らせていただきます。

「A I 時代に必要な資質能力は」。

現在、第4次産業革命の真ただ中です。第3次産業革命の頃までは、日本は世界トップの経済大国でしたが、その後のITのソフトウェア改革において大きく遅れをとっています。

この流れは1980年ごろから、いわゆるバブル期である89年までは倍増していた研究開発費が、次の2000年ごろまでには2割程度の伸びしかなく、2000年から2021年まで見ても、同じく2割少々の伸びであり、現状ではアメリカには5倍程度、EUには3倍程度大きく引き離されている状況があります。

また、それまでほとんど姿形もなかった新興の中国には2008年ごろに逆転され、現在では推測で5倍ほど引き離されていることからわかります。

結果として各国がAIを含めた各種ソフトウェア改革に投資していた時期に、相対的な投資が減っていったことが原因です。また、世界の公的教育費の対GDP比比率では、2022年ランキングで121位です。アメリカが44位であり、日本の4倍を超えるGDPを誇るアメリカにGDP比率でも負けているという点では大きく危惧するものがあります。なお、中国は123位であり、自由主義国ではないため、教育等にも大きな偏りがあるものと思われまますので単純比較はできません。

この状況をひっくり返すことは非常に難しく、一地方自治体である綾川町で費用的な部分で対策をとることは不可能であると言えます。しかしながら、手法の転換や、基礎的な教育の改善により、将来につないでいくことは可能と考えます。

教育の充実への投資は国益、町益を考えれば、最大限に優先されるべき案件であり、すでに国内生産が壊滅し、大きく外資に依存している我が国において、将来的な国力の反転に向けて、下降領域である今より対策をとっていくことが必要です。

さて、表題のAIについては、現在、驚くほどのスピードで開発が進んでいます。1年前には、非常にマニアックな分野や専門的な分野で活用されていただけでしたが、現在では様々なアプリや問い合わせチャット、Web検索等で完全に一般化しており、知らぬ間に誰もが使っている状況になりました。

これはビッグデータから学習する手法が現在のAIの手法であり、基礎的な学習済みモデルをコピーして別の環境に特化させたり、開発用アルゴリズムからソースコードまで含めて、AI自身がみずからの開発コードを生成できることから、進化することでその進化スピードがさらに加速するという循環を続けていることに起因します。

私も様々な開発アルゴリズムを日本語でChatGPT-3に投げかけたところ、ほとんどそのままコピペで使用できるソースコードを返してきました。手動で開発す

るにしても、おそらく数倍から 10 数倍の開発期間の短縮が可能だと思います。これが無償版の G P T - 3 で最新の G P T - 4 では、さらに高度なコードを返すとのことなので驚異的な性能です。

先に述べた通り、大きく引き離されている我が国の現状ではありますが、これから他国の成果物を用いて高度かつ高効率な教育を施していく必要があります、歴史を見ても明らかな日本人の高い応用力を世界に示す未来につなげる義務が我々にはあります。

また、すでに世間に浸透した A I 技術を排除することは、当然ながら不可能であり、今後手法は異なれど、A I と同種の技術がされることはないと考えられます。

今後の経済振興を考えても、積極的な研究と活用が必要であり、各分野で A I と付き合っていく必要があります。

さて、教育の分野では開発等は当然として、オペレーション部分、実際に使う方法において、教育上の配慮と活動支援を示していく必要があります。

令和 5 年 7 月 4 日に通達された文部科学省の初等中等教育段階における生成 A I の利用に関する暫定的なガイドラインについてですが、非常によくできた内容であると思います。

まず最初に生成結果の誤りに対する懸念を示している点は、大きく同意します。A I の事象に限らず、現在はこのファクトチェック、真贋確認が必須のスキルとなっております、誤った資料や結果をもとにディスカッションや学習をしても意味がありません。

その上でこのガイドラインの 1 ページ最後にあります生成 A I の普及と発展を踏まえ、これからの時代に必要となる資質能力をどう考えるのか、そのために教育のあり方をどのように見直すべきか等については今後中央教育審議会等でさらに検討を行うとのこと、この文章は今後の A I 教育を進める上での要点を端的にまとめられていると思います。

詳しくは、同資料は P D F にてインターネット上で公開されているので、ご確認ください。これらを踏まえた上で質問です。

- ・先日のガイドラインは、現場に通達されていますか。
- ・ I T 倫理について、時間確保はしていますか。
- ・特に生徒相互の話し合い時間等はとっていますか。
- ・これからの時代に必要となる資質能力をどう考えますか。
- ・綾川町として独自の考えをまとめたもの、もしくは検討したことはありますか。または、今後検討しますか。
- ・次が、A I を活用して考えられる授業の時間短縮手法はありますか。
- ・今後、A I 教育の研究に何らかの予算はつけますか。

答弁をよろしく願いいたします。

○教育長（松井）はい、議長。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井） はい。

○教育長（松井） 川崎議員、久々のご質問で、若干緊張しておりますが、よろしくお願ひします。

川崎議員の質問、「A I時代に必要な資質能力は」についてお答えいたします。生成A Iの教育利用については、今後も急速な開発、浸透が進むことが予想されております。教育現場における活用も、利用排除ではなく推進されると考えられます。

しかしながら、開発進化に伴い、様々な課題も同時に増加しており、情報活用能力は大変重要な視点となっております。

まず、令和5年7月に国から通達されたガイドラインについては、各学校に7月10日に通達し、7月の校長会で確認をしております。また、そのガイドラインによる保護者への生成A Iの利用にあたっての注意点も通知しております。

次にI T倫理についての教育時間の確保については、I Tリテラシーの学習として中学校では技術科や道徳の授業で指導しております。

小学校ではI C Tサポーターと連携し、道徳授業や学活の時間において指導をしています。

また、生徒同士の話し合いの機会は授業の中で設けており、様々な課題があるI C Tの教育の推進において、今後とも十分な時間を確保する必要があると考えます。

次に資質能力についての町独自の考え方をまとめたものはございません。

また、今後については、国や県の答申を踏まえ見据え、着実な資質能力の育成を実践することとし、独自の作成については、必要に応じ検討いたします。

次に、A Iを活用して考えられる授業の時間短縮手法については、現時点では考えていません。今後情報収集を行い、研究課題といたします。

次に、A I教育の研究の予算についてであります。現在導入している端末C h r o m e b o o kのG o o g l e社と連携し、情報収集や教員研修を無償で行っていただいています。今後とも連携を強化し、充実した資料提供、研修を行い、予算確保については、必要に応じて対応してまいります。

以上、川崎委員の「A I時代に必要な資質能力は」の答弁といたします。よろしくお願ひします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○1番（川崎） ありません。

○議長（河野） はい、川崎君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○1番（川崎） はい、議長。

○議長（河野） 川崎君。

○1番（川崎） 続いて2問目の質問に入らせていただきます。

「綾上地域活性化の中心軸は」。

綾上地区を中心とした過疎地域の活性化や諸課題について質問します。現在、過疎地域活性化協議会を立ち上げ準備中で、該当地区に住む住民として大変うれしく思いま

す。綾上地区は空港所在地であることから、東京や世界に近い場所になります。

また県内のほとんどの地域に1時間以内でアクセスでき、徳島中北部や複数のルートがあり、香川県で就職されてる方も多数おられることから、通勤・流通の経路となっています。

また、多くの自然と里山が残っており、いわゆるちょうどいい田舎となっています。

今後においては、農家民泊やキャンプ施設等の宿泊による体験型観光も期待できます。

さて、様々な意見を集約する活性化協議会ですが、現段階で、綾上地区の活性化に対して、町が中心軸に据えるものや考え方は何になりますか、お答えください。

また同地域には、学校の跡地を含む公共施設跡がありますが、現段階で活用が決まっているものや、今後の活用予定があるものなどをお答えください。

また、綾上中学校跡地には、現在も給食センターが稼働していますが、供給している施設の児童幼児の減少に対応するべく、今後の活用について、PFI事業の一種であるコンセッション方式など、施設の有効活用についての検討はありますか、お答えください。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

急激な少子高齢化、自治会組織の衰退、空き家の増加など、人口減少社会にあっても、地域社会が安定し、人々が、快適で安心な暮らしを営んでいけるような地域を目指すために、町の重点施策として、過疎地域活性化推進事業、これに取り組んでおります。

その一環として、旧綾上町地域を対象に、旧小学校区域、小学校区単位4校区ございますが、これで地域運営組織である地区活性化協議会の設立に向けた取組みを進めております。地区活性化協議会は自治会の機能を補完しつつ、地域で活動する住民などで構成する地域住民による地域の暮らしを支えるチームであります。

地域の課題を話し合い、地域住民が主体となって、課題解決に向けた取組みを継続的に実践する中で、町職員である地域担当職員や、地域外の多様な人材が関わり、現世代だけでなく、未来世代と協調しながら、未来世代が住み続けられるような新しい仕組みを現世代が創っていく、末永く住み続けられる持続可能な地域を目指すものであります。

その取組みについては現在各地域におきまして、地域住民と地域担当職員が話し合いを進めており、各地区の特性を生かした取組みを期待をしております。

未利用となっております公共施設跡地の利活用につきましては、各施設の特性に合った利活用が図られるよう、進めている段階でありますので、具体的な内容が決定した時点で、改めて報告をさせていただきます。

なお、綾上中学校跡地内にある学校給食調理場につきましては、現状のままの運営を予定しており、跡地利活用事業者とは共存することを条件として検討してまいりたいと思います。

以上です。以上、答弁といたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○1番（川崎）再質問あります。

○議長（河野）はい。

○1番（川崎）議長。

○議長（河野）川崎君。

○1番（川崎）ただいまのご答弁ありがとうございました。

一応先ほどの中心軸に対しましては、地域それぞれで特性を活かして取組んでいただくというような答えであるかなと思います。ってことはですね、地域住民の方ですね、軸を決めて、そしてそれに対して町の方は支援をしていただけるという認識でよろしいのでしょうか。確認させていただきたいと思います。

続きましては、そうですね。給食センターに関しては現状維持のままということですので、今後ですね、先ほど言いましたが、質問の中でもありましたが、今現在、保育所等にも拡充、拡大してですね、供給しておりますが、こちらですね、残念ながら綾上地区、今現在のところ当面の間ですね、減少が続くかなと予測されております。

そういった中で、その中でも現状のまま維持するというだけという考えであるということ、これもよろしいのか、確認を再度させていただきたいと思います。

○議長（河野）福家いいまち推進室長。

○いいまち推進室長（福家）はい。

○議長（河野）福家君。

○いいまち推進室長（福家）はい。

○いいまち推進室長（福家）川崎議員の再質問にお答えをいたします。

川崎議員申し上げた通りですね、地域の特性を活かしてということで、軸は私どもは活性化協議会だと思っております。それには間違いございません。

町の方の支援はですね、活性化協議会の支援で、活性化交付金の交付でありますとか、担当職員の配置、各種情報の提供などを今後行っていきたいと思っております。

それから、給食センターの方につきましては、現状のままの運営ということになるのかと思います。以上です。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○1番（川崎）ありません。ありがとうございました。

○議長（河野）以上で、川崎君の一般質問を終わります。